

37号 (5月号) 2016年 5月1日	七里ヶ丘こども若者支援研究所 それが社会参加だ!	住所:鎌倉市七里ヶ浜東2-31-12 連絡先:090-7212-4055 Email:qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp 編集長:新舛秀浩 発行責任者:滝田衛
-------------------------------	------------------------------------	--

3月26日「いじめ不登校解決市民サミット準備会議」感想頂きました感謝です。

「共感する心」 涌井貴焼さん(会員)

篠原さんの話を聞くのは2回目なのだが、いつもイジメ、自死について深く考える。いまだに世間のイジメや自死に対する認識は被害者にも悪いところがあるのでは、自死するなんて迷惑をかけているなど、被害者責任論が多いと感じる。残念だが優しさを感じない。



篠原宏明さん撮影川辺悟史さん

今回はイジメる側の視点を、自分の過去を振り返って考えてみたい。私はイジメられた経験がある。そしていじめた経験もある。イジメていた当時の経験を考えてみた。その頃の私は、世界は自分を中心に動いていると本気で思っていたのだ。例えではなく本気で自分がいるからこの世が存在すると思っていたのだ。なので、世界で起きている悲劇や死は自分には絶対起きないと思っていた。そしてこの世は自分の物でもあったように感じる。なのでその頃の遊びで印象深いのは、虫を見つけては手足を引きちぎってその様を見て遊んでいた。罪悪感は全くなかった。むしろ、圧倒的な支配感を楽しんでいた。人に対してもそのような感覚でいた。しかしいつの頃からか、世界で起きている悲劇や、自分がしている残酷な事も自分に起こりうると感じ始めた。つまり初めて「共感」という感情が生まれたのだ。なぜ「共感」が生まれたのかははっきりとは分からない。おそらく、自分の考えもしない理不尽なことがおきたのかもしれない。それは祖父母の死だったり、あるいは映画や音楽で感じたことなどいろいろな経験や要因があるのだろう。学力向上も必要だが、今イジメについて子供たちに本当に必要なものは「共感」だと私は感じる。そして今、イジメていた過去が私の一番の人生の汚点であると感じている。

コラム風 多くの方々のご支援とご協力で“いじめ不登校解決市民サミット準備会議”が終わり、当日の録音テープお返しをしています。篠原宏明さん、小林大真さんそして2部登壇者の一言一言を文字にすることを通じて、本サミット開催の意欲が益々湧いてきます。神奈川新聞教育欄(4/25付)で文科省不登校統計の日数把握が実態に近づいた記事を読みましたが、本質は不登校の解決です。もちろん正確な実態把握は不可欠ですが、未だに「学校へ行くこと」=「不登校解決」です。子ども理解の研修や冊子を発行し、スクールカウンセラーを配置しても約20年効果なく、不登校は無くなりません。「いじめられている子は図書館へ」は解決ではない。いじめをやめさせることが解決。」と篠原さんは提言します。小林さんは「学校へ行きたいのに行けない」という切なさを素直に語りかけました。結論は『学校で学べない学ばない』子どもの教育を実現し、『学校へ行かない行けない』子どもを悩ませない社会の実現です。資格社会が高校教育を要求する現在、高校教育は多様です。“学び”を最優先し地域のどこでも学べる義務教育(子どもの教育権)を実現する時です。義務教育は“しつけ・訓練”を優先し“学び”を後回しにしています。自己肯定感が圧倒的に低い日本の子供達(内閣府)に、難しい?自己選択の義務教育を地域に実現しましょう!(滝田衛)



4月17日子ども若者応援団会議「自己受容！ありのままの自分で」



東京から初参加の方を含め10名の参加感謝です。10名各々の活動を紹介してもらいました。川辺順子さんは息子さんに想いをよせ、小幡さんは1年を振り返り今後は無理せずマイペースで、初参加の内村さん(東京から感謝！)3月のサミット準備会で篠原さんのお話に感動。安川さんは自分の持ち味を生かし「未来をこの手に！大討論会」で政策のディスカッションに幸せを感じ、島根さんは息子さんお孫さんと向き合い、飯田さんは就労への意欲と文化祭に向け作詞を、川辺悟史さんは歯科大4年生へ進級(快挙！)、滝田さんは娘さんの挙式にハワイへ、新舩はひきこもり当時者グループ「ひき桜」へ行った体験談を語り、蘇武さんは学校現場に視察への提案。皆さんの議論の中で「自己受容」というキーワードがでてきました。どのような人でも自分は自分でよい。ありのままの自分を受け入れることが大切なのではないか。我々の方向性については、寄付金の運用検討、来秋にサミットに向け具体的に動きます。皆様のお力を下さい。次回5月15日子ども若者応援団会議です。ぜひ参加して下さいね。(新舩)

それぞれの風

○5年ぶりにS青年が我が家に来てくれた。感激！そして筋骨たくましいその姿に感動した。父親70才、母60代で病気とうまく付き合いながらの日々を共に。弟さんの結婚を控え笑顔の報告を頂いた。Sさんも30代中盤、日々積み上げる自己流トレーニングと



♪～この木なんの木～♪

コーヒーへの嗜好の日々であると。大学卒業後のひきこもり生活を背負いながら、改めて何か始めたいと相談された。話を聞かせて頂くほどに、生命の豊かさを実感した。「何かできることを探していこう」と結論のない話で終始した。でも、清々しい意義深い時間だった。



パールハーバー・戦艦ミズリー

○その翌日は巻頭言の涌井貴暁さんが来てくれた。「ひきこもりの支援活動を始めたい。当事者が寄り添うのが一番ではないだろうか」と相談を受けた。一般社団法人をつくらうとの計画も示してくれた。「できれば訪問して話し相手になってきたい」と活動の一端を語ってもくれました。二つ返事で一緒に！と答え、取りあえずHPやfacebookでの公表を共有しようとの運びになりました。

○春は人が動くとき？ いろいろな報告を頂きました。●26歳？ トライアルから正社員。社会人1年目が終わった、そうです。●通信制サポート校を経て大学生になった、20歳を超えたと思います…(志村風に)学びはイイよな～。●川辺悟史さん、歯科大学4年生進級。30代ですが自己肯定感高く研修医へ第一歩です。●不登校の中3生も高校生です！ 当たり前ですが(笑)

○恥ずかしながら↓ ハワイへア ミズリー案内ボランティアは素敵な日本女性。規則違反のリムジン便乗OKのドライバー、ノースショアのガイド&シェイブアイス松本氏、最高な日本日系人!!(滝田衛)

【ご参加下さい】
応援団会議は横須賀市・市民サポートセンターで行います。誰でも参加出来ます。途中参加・中座歓迎です。

5月研究所開設日程 相談時間10～16時 土日訪問はご相談

4日(水)	お休み	18日(水)	他事業
5日(木)	お休み	19日(木)	相談
11日(水)	他事業	24日(火)	横須賀市支援教育推進委
12日(木)	相談	25日(水)	他事業
14日(土)	小田原市で講演会	26日(木)	相談
15日(日)	応援団会議	鎌倉市教育相談	13・17・24・31日